

第10回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

平成29年4月27日（木）に第10回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1階多目的室 1で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、理学療法士、看護師、訪問看護師と様々な職種の方々が43名参加されました。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、当院の末重千里看護師長を司会として、宮内副看護師長の「緩和ケアミニレクチャー」から始まり、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行いました。

緩和ケアミニレクチャー「がん治療期からの在宅支援について」

山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 宮内貴子副看護師長

事例：「外来化学療法継続について本人と家族の意向が異なった舌がん事例」

山口大学医学部附属病院 歯科口腔外科 加藤芳明先生
山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター看護師 野村さやか看護師

参加者の方々からは、「患者家族への介入を更に早期から行わなければならないことを学ぶことが出来た」、「医師の参加が多ければより良いと思う」、などの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

この度は、様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》



